

研究通信

№. 50

1965、1刊
村落社会研究會
事務局

甲府市武田四丁目
山梨大学農学部
社会学研究室内

村研拡大委員会報告

去る十一月三十日駿心義塾大学において拡大委員会を開きました。

当日の出席者は、有賀喜左衛門、喜多野清一、小池基之、福武直、中野卓、柿崎京一、米地英、大淵英雄、服部治則。

議題は村落社会研究会年報の件、編集委員会のもち方の件、来年度大会共通課題の件などであり、次の如く決定した。

(A) 年報について

一、年報表題、メインタイトルとして『村落社会研究』第〇号とし、サブタイトルは特集のある

場合、増書房と相談の上決める。

二、内容と体裁

1. 内容

- (1) 論文（特集論文、自由論文）
- (2) 研究ノート（問題作の批判論評を含む）
- (3) 資料
- (4) 研究動向
- (5) 大会共同討議録

右のうち(2)(3)(5)は号によつて欠く場合もある。

2. 学界の研究成果を高い水準で示す。

3. 外国に関するものも載せる。

4. 論文一篇の枚数は五〇乃至一〇〇枚。資料をどの程度入れるかによつて異なる。

5. 大きな論文の場合、『研究叢書』として出すことを村研の事業として考える。『研究叢書』は年報の他に、継続的に刊行される形を会で決める。

三、編集委員会

1. 委員構成

- (1) 全体の動向のわかる委員会を設ける。
- (2) 委員は専攻別地域別を考慮して、大会において選出する。

(但、本年度は在京拡大委員会が暫定的にその衝に当る)

2. 委員会の権限

- (1) 原稿を依頼し、提出された論文の取捨選択を行う。
- (2) 書き直し箇所を執筆者に指摘することができる。

3. 編集事務

- (1) 右の編集委員のうち東京在住のものを実行委員とする。
- (2) 実行委員長は実行委員を指揮して編集の事務に当る。

- (3) 実行委員長が編集委員長となるようにする。

- (4) 実行委員長の所属校を編集事務の当番校とする。

(但、本年度は実行委員長を小池基之氏にお願いし、当番校を慶応義塾大学とする)

(B) 『村落社会研究』第一号の編集について

第一号の編集については、暫定的に(四十年大)会において編集委員会が正式に成立するまで)在京拡大委員会がその衝に当り、編集委員長を小池基之氏に委嘱し、慶応義塾大学において編集事務を執つていただくことにした。

本日開かれた委員会において次のように決定した。

1. 執筆者

- (1) 論文執筆者 安原茂、黒崎八洲次郎、布施鉄治、岩本由輝、川口諦、福武直。

(2) 資料執筆者 原宏

(3) 研究動向執筆者 矢木明夫、安孫子麟

神谷力、高橋明喜、竹内利美

2. 原稿〆切 三月末日

3. 出版予定 九月

(c) 四十年慶大会共通課題について

アンケートによつて会員の意向を求め、その上で決定することにした。

(以上昭和三十九年十一月三十日議事)

※ 『村落社会研究』 第一号執筆者について

右の十一月三十日の拡大委員会の決定に基き、執筆者に依頼状を出し、承諾を得た。執筆者及び題名は次のとおりである。

1. 論文

安原 茂 「『都市化』過程と農家・農村」

黒崎八洲次郎 「大正期における農家の経営と

部落について

——北海道虻田郡留寿都村大西家文書を中心にして——

岩本由輝 「『むら』の解体

——商品流通の進展と村落共同体——

布施鉄治 「現代における『むら』の存在形

態と農民の対応形態

——その一類型の事例研究——

川口 謙 「鹿児島島の農村社会」

福武 直 「インドの農村」

2. 資料

原 宏 「明治期一村落的協議録

——北九州速賀の区有文書から——

3. 研究動向

史学・経済史学 東 北 大 矢木 明夫

経済学 東 北 大 安孫子 麟

法社会学 愛知学芸大 神谷 力

社会学 東京農工大 高橋 明喜

民俗学 東 北 大 竹内 利美

※ 昭和四十年年度共通題目アンケート

右の拡大委員会で、昭和四十年年度大会の共通題目をアンケートにより会員の意向を求めて、も一度委員会で討議することになりましたので、各会員より御意見を御送り戴き度いと思ひます。二月上旬に委員会が開かれる予定です。

大会のもち方についてのアンケート

一、大会のもち方

A、共通課題のみ。B、自由課題のみ。C、両者

二、共通課題

a、「むら」の解体（昭和三十九年より継続）

b、其他（題目と共にできれば理由をお書き下

す）

◎ 事務局より

昨年九月二十三日、二十四日の箱根強羅における第十二回大会において、村落社会研究会事務局を慶応義塾大学から山梨大学に移すことに決定されました。山梨大学は位置的に不便の上、研究室も不完全なので、十分にその責を果し得るかどうかが心配ですが、幸い前事務局の応援を得まして努力したいと存じます。

研究ニユースの原稿、御意見など、どしどし御送り下さるよう御願ひします。なお事務局は左記の通りです。

山梨県甲府市武田四丁目

山梨大学学芸学部社会学研究室内

村落社会研究会事務局

（服部 治則 記）